

福島県高等学校PTA会報



発行者 福島県高等学校連合会
編集者 福島県高等学校連合会
発行所 福島県高等学校連合会
発行所 福島県高等学校連合会

矢部氏を新会長に

また、最後に本年度から統合により新たな学校として会員と

平成二十九年年度総会は、六月一日（木）、穂元時宗副会長の開会のことばで始まり、田中清美会長のあいさつの後、会長を議長として議事に入り、今年度の事業計画案などを慎重審議の上決定し、新たに会長として矢部浩樹氏を選出しました。その後、新旧会長のあいさつなどが行われました。

- 一 平成二十八年年度事業報告
- 二 平成二十八年年度決算報告
- 三 平成二十九年年度事業計画案
- 四 平成二十九年年度予算案

- 会長 矢部 浩樹（安積黎明）
- 副会長 高橋 照伸（川俣）
- 吉野 敏治（田村）
- 齋藤謙市朗（喜多方）
- 西村 淳（いわき光洋）
- 青田 直子（原町）
- 菅野 哲哉（安積黎明）
- 吉田 一巳（湯本）
- 齋藤 太志（白河実業）
- 田中 清美（元会長）

- 顧問 田中 清美（元会長）
- 監事 齋藤 太志（白河実業）
- 吉田 一巳（湯本）
- 菅野 哲哉（安積黎明）
- 青田 直子（原町）
- 西村 淳（いわき光洋）
- 齋藤謙市朗（喜多方）
- 吉野 敏治（田村）
- 高橋 照伸（川俣）
- 矢部 浩樹（安積黎明）

第67回いわき大会

『共生』～福島未来のために～



会長他二八名の方々のPTA活動への功績に対し感謝状が贈呈されました。また、県高P連広報紙コンクールで県代表となった川俣高校PTA、平商業高校PTA、富岡高校PTAの三団体が表彰を受けました。

開会式ののち、平商業高校のフラダンス愛好会・いわき海星高校のチームじゃんがらによるアトラクション公演が行われ、両校生の熱演が大変好評でした。つづいて、いわき光洋高校OGで歌人の三原由起子氏の講演

由起子氏（浪江町出身）の「ふるさととは人」の講演が行われました。この講演も多くの人々の心に残る内容で、福島県共生と再生の糧となりました。

二日目の分科会では、各二校の発表と質疑応答後に指導助言を受け、各分科会の会場で閉会式を行い解散しました。

第一分科会（総務）
「PTA行事参加拡大の取り組み」・「公開文化祭におけるPTA活動の記録2015・7・19」
田村高校PTA会長吉野敏治

第四分科会（健全育成）
「あいさつ〜こころと社会のアイス・ブレイク〜」
遠野高校PTA会長鈴木晴彦
「喜多方東高校の取り組みと今後の課題」
喜多方東高校教諭 松本靖弘

第五分科会（調査広報）
「本校広報活動の現状と課題」
小野高校PTA会長多熊 豊
「小規模校（学年二クラス）におけるPTA活動と問題点」
小名浜高校調査広報委員長 石上ゆかり



平商業高校のフラダンス



いわき海星高校のじゃんがら



三原由起子氏の講演



分科会の様子

「文武両道への挑戦〜伝統を繋ぐ〜」
磐城高校PTA会長松崎智弘
第二分科会（進路対策就職）
「相馬農業高校における進路指導の取り組みについて」
相馬農業高校PTA会長 若林尚之

第三分科会（進路対策進学）
「特色ある学科の現状と進路指導の課題」
福島南高校PTA副会長 齋藤智之
「本校進路指導の取り組みについて」
平商業高校PTA会長 佐藤美樹

「今年も全国から義援金」
矢部会長からふたば未来の丹野校長、PTA役員の皆さんへ

平成二十九年六月二十四日に東京で開催された全国高P連定時総会において、東日本大震災の被災地支援のため全国のPTAから寄せられた義援金の贈呈式が行われました。

全国高P連の佐野元彦会長から第九次分百十万円の日録が手渡され、矢部浩樹県連会長が御礼とともに本県の現状を伝えました。平成二十三年度の第一次からこれまで、計四千七百三十万円にのぼる多額の義援金が復興の一助にと本県高P連に寄せられております。

いただいた第九次義援金については、八月一日の総務委員会において、昨年度と同様に全額を相双地区の加盟校に配分して活用いただくこととし、八月九日にふたば未来学園高校において、校長及びPTA役員の皆様の出席のもと贈呈式を行いました。

高校教育の充実を県教育長に要望
県高P連は、九月六日（水）、県庁において矢部浩樹県連会長はじめ各地区会会長が参加し、「高校教育の一層の充実」について、急激に変化する社会状況に対応した学校の在り方や、未だ各学校に保管されている除染後の土壌の適切な処理等をはじめとする六項目の要望書を、鈴木淳一教育長に手渡しました。

県教委からは、二十九年六月の学校教育審議会答申を受け、今後取り組む学校改革の見通しや、それに伴う課題等の説明があり、それらについての意見交換及び懇談を行いました。



鈴木教育長に要望書を手渡す矢部会長

全国高P連顕彰受賞者			
橘高校	全国（進路対策委員）		
A P T A 活動の活性化（第66回福島大会）			
東北地区高P連顕彰受賞者			
福島明成高校	副会長	県北地区会長	
郡山商業高校	副会長	県南地区会長	
橘高校	会 長	理 事（県連会長）	
相馬東高校	副会長	代議員（進路対策委員）	
勿来工業高校	副会長	代議員（健全育成委員）	
葵高校	副会長	代議員（調査広報委員）	
事務局	事務局長	代議員（総務委員）	
福島県高P連顕彰受賞者			
橘高校	会 長	（東北地区高P連副会長）	
橘高校	理 事	（事務局次長）	
橘高校	理 事	（事務局次長）	
橘高校	理 事		
福島明成高校	副会長	（県北地区会長）	
福島明成高校	理 事	（県北地区事務局次長）	
福島明成高校	理 事		
川俣高校	理 事		
川俣高校	理 事		
郡山商業高校	副会長	（県南地区会長）	
郡山商業高校	理 事	（県南地区事務局次長）	
郡山商業高校	理 事		
田村高校	理 事		
葵高校	副会長	（会津地区会長）	
葵高校	理 事	（会津地区事務局次長）	
葵高校	理 事		
喜多方高校	理 事		
会津高校	監 事		
勿来工業高校	副会長	（いわき地区会長）	
勿来工業高校	理 事	（いわき地区事務局次長）	
勿来工業高校	理 事		
いわき光洋高校	理 事		
いわき総合高校	幹 事		
相馬東高校	副会長	（相双地区会長）	
相馬東高校	理 事	（相双地区事務局次長）	
相馬東高校	理 事		
原町高校	理 事		
原町高校	理 事		
事務局	理 事	（事務局長）	

東北大会 報告

東北高P連盛岡大会
来年は郡山で

高P連事務局 大和田 修

第六十六回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会は、「掛けドリムマップ」～世界への架け橋を郷土から～をテーマに、平成二十九年七月六日(木)・七日(金)の両日にわたり、東北各地から約千五百名の会員(本県からは百十八名)が参加して盛大に開催されました。

第一日目夕刻からの情報交換会(ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング)に続く

二日目は、盛岡市民文化ホールにおいて、盛岡第一高校生徒による詩の朗読によって幕を開け、主催者あいさつ、来賓祝辞に続きPTA活動功労者の表彰が行われました。

研究協議では、六名の各県代表による研究発表をもとにシンポジウムが行われ、活発な意見交換が行われました。

本県からは、原町高校の米津友市PTA副会長が「福島県相双地区の現状とPTAの役割」～震災期から平常に戻りつつある南相馬より～と題して、震災及び原発事故からの復興過程において、学校の教育活動のみならず日常生活において、よりよい環境を取り戻すためにPTAが果たした役割について報告を行いました。

記念講演では、平泉毛越寺貫主の藤里明久氏が「平泉の浄土思想と世界遺産登録」と題して、平泉に花開いた文化の素晴らしさとそれを遺産として受け継ぐことの意義を説



「がくと君」も一緒に郡山大会への参加を呼びかけました。

学大臣、川勝平太静岡県知事があいさつし、PTA活動の発展激励を受けました。

その後、静岡大学名誉教授・小和田哲男氏による「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」と題した基調講演があり、大河ドラマ井伊直虎を引き合いに出した講演に参加者が引き込まれていました。

二日目の記念講演では浜松出身の俳優寛利夫氏が「寛利夫 これがオレの生きざまだ!」を演題として、ご自身が育った地元の話や現在活躍するまでの話など会場を巻き込んだ講演に盛り上がりました。

閉会式では、第六十八回大会の開催地である佐賀県高P連を代表し、西岡豊会長が登壇し、「広めよう 高めよう 慈しむ心」をメインテーマとして慈しむ心を忘れず希望の明日をつくっていくことを願った佐賀大会への多数の参加を呼びかけ、第六十七回大会が盛会のうちに閉じられました。

全国大会 報告

全国大会報告

高P連会長 矢部 浩樹

第六十七回全国高等学校PTA連合会大会が、八月二十四日(木)、二十五日(金)の二日間にわたり静岡県袋井市エコパアリーナを会場として開催されました。「有徳の人」づくり～未来のために行動する「一人」を育てよう～の大会テーマの下、全国各地から会員一万人が集結し、県内各会場では静岡県高等学校PTAの方々による心のこもった温かい運営が行われました。

開会式には、林芳正文部科

委員会報告

総務

委員長 矢部 浩樹
(安積黎明高等学校)

第一回総務委員会を八月一日に福島県青少年会館で開催し、次の議案について協議しました。

①教育長への要望活動について

九月に会長、副会長が教育長を訪ね、要望書を手渡すことを確認しました。

②全国高P連からの義援金の扱いについて

全国高P連から贈呈を受けた、東日本大震災及び原発事

故からの復興に係る第九次義援金百十万円について、全額を相双地区の各高校に配分することとし、特に新設の小高産業技術高校及びふたば未来学園高校に手厚い対応とすることを決定しました。

③団体契約保険について

平成二十九年度団体保険の契約状況と今後の契約条件のあり方等について、引き受け保険会社からの資料をもとに分析し、次年度の募集内容について第二回委員会までに検討することとしました。

④次年度の行事予定について

東北地区高P連郡山大会の開催、東北地区高P連事務局の担当、全国高P連役員の派遣等、平成三十年度は本会活動が例年とは異なる状況となることを踏まえ、行事の日程やその持ち方について、適切な対応をしていくことを確認しました。

進路対策

委員長 齋藤謙市朗
(喜多方高等学校)

今年度の県高P連進路対策委員会の活動報告をいたします。六月の県総会で平成二十八年度の活動報告を受け、二十九年度の活動方針が、以下のように決定しました。

①新規卒業生の雇用促進対策

②高校生の進路対策について

③進路指導と家庭教育の抱える諸問題の調査と研究

この三項目を軸として、八月に第一回進路対策委員会を開催し、委員の方々から、それぞれの学校の活動状況を報告していただきました。

各地区、各校とも進路講演会の開催や大学・企業訪問などを行っており、保護者も

高校生の進路対策について調

査研究を深めていました。また、一月に第二回進路対策委員会を開催し、十一月に会津地区で実施した就職に関する講演会の骨子をメールで県内全高校に配信することになりました。

高校生の進路希望実現のためには、幅広い視野に立った思考力、判断力そして表現力が必要であると思います。これらの生きる力を養うことができるよう、家庭、学校、地域社会の三位一体のサポートが重要であると考えています。

健全育成

委員長 吉野 敏治
(田村高等学校)

今年度の活動は、例年通り六月の東北高P連第一回健全育成委員会(盛岡)と八月の県高P連健全育成委員会において今年度の活動方針が了承され、各地区・各校毎の活動が始まりました。全体の活動としては、保護者と教職員と生徒が共同で実施する形態が多い「登校時一声運動・マナーアップ運動」に各校毎に継続して取り組んで頂きました。

今年度は県高P連で準備したキャンペーン用の横断幕と幟旗を利用し参加した学校も含め、七月十月の間に七十校から報告書を頂きました。

また、東北高P連健全育成委員会では他に、年度末発行のリーフレットの特集テーマを「絆を育むPTA活動」(「親子の絆を深め、地域とつながる」)として各県から活動例を募りました。本県からは長沼高校の地域貢献活動の様子が掲載される予定です。全体的にも、教職員・生徒と共に地域活動に何らかの形で保護者が参加する動きが活発な

調査広報

委員長 西村 淳
(いわき光洋高等学校)

第一回調査広報委員会は、八月一日県青少年会館で開催され、今年度の活動計画・広報紙コンクールの日程・高P連会報の内容などの検討が行われました。第二回調査広報委員会は、一月二十六日に開

全国大会

栄光を称えて

新たな船出

ふたば未来学園高校バドミントン部
久保田 友之祐

私たちバドミントン部にとって、今年度はふたば未来学園高校としての三学年が全て揃い、完全な単独チームで活動する最初の年度になりました。富岡高校時代の先輩方から伝統を引き継ぎ、新しい歴史を作る立場になったことにプレッシャーを強く感じながら迎えたインターハイでは、六種目中五種目で優勝という成績を残すことができました。



踊りにかける青春

～振り返りたい夏になる～
郡山商業高校チャリディング部
土田 楓夏

八月、私たちはダンスドリル大会POM部門で初優勝を果たすことが出来ました。夏の大会で頂点に立つまでの道のりは、想像を超えるたくさん人のドラマがあり、それは決して楽しいものだけではありませんでした。昨年の秋、新チームになってから踊り続け



講評をする熊谷尚也氏(福島民友新聞社)

ていたPOM。何度も地道に同じ練習を繰り返し、先輩方を中心にアドバイスをし合い、少しずつ成長していきまし



部員全員で掴んだ勝利
安積黎明高校 かるた部
賀澤 茉由

た。毎日の長く辛い練習も、お互いを高めあっている仲間がいたからこそ乗り越えることができました。そして迎えた夏、皆の日々の努力と全



良いチームになるのかを部員全員で考え、反省し、全国制覇という目標に向かって一丸となり努力し続けました。その成果もあり、大会では「楽しくかつよく礼儀正しい」黎明かるた部らしい団体戦をすること、プレッシャーをはねのけ、かるたを全力で楽しみながら試合をすることができました。

私たちがここまで来ることができたのは、伝統を築いてくださった先輩方、監督や顧問の先生方、応援してくださる多くの方々のおかげです。これからも感謝を忘れず、精進していきます。

私達会津高校合唱部は、十月二十八日に行われた全日本合唱コンクール全国大会で金賞並びに大阪府知事賞（第二位相当）を頂くことができました。

今年、県大会・東北大会とあまり納得のいく演奏をすることができな

宮城県で行われた全国高等学校総合文化祭に、「大切な家族」という題名で妹と犬の写真を出品し、参加してきました。

私は、妹と犬の仲の良さが伝わるような写真を撮ろうと思ひ、散歩中の様子を撮りました。特にこだわったポイント

私達会津高校合唱部は、十月二十八日に行われた全日本合唱コンクール全国大会で金賞並びに大阪府知事賞（第二位相当）を頂くことができました。

個人
●第41回全国高等学校総合文化祭写真部門
戸田 泰成（磐城桜が丘）
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第41回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門
本田 茉那（安積黎明）
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第39回全国小倉百人一首かるた選手権大会
西牧 美渚（安積黎明）
最優秀賞・文部科学大臣賞

●全国高等学校ダンスドリル選手権大会2017
鈴木 梨奈（郡山）
優勝・文部科学大臣賞

●第9回全国高等学校ダンスドリル冬季大会
大河内 かの（郡山）
優勝・文部科学大臣賞

●第64回全国高等学校珠算・電卓競技大会
海老澤 雪乃（平商業）
優勝・文部科学大臣賞

●第41回全国高等学校総合文化祭放送部門
大石 田 萌（郡山）
優勝・文部科学大臣賞

●世界青少年発明工夫展2017
大平 隆史（郡山北工業）
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第12回若年者ものづくり競技全国大会
高橋 龍平（福島工業）
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第7回文部科学大臣杯全国高等学校フラ競技大会
好間 フラダンス部
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第40回全日本アンサンブルコンテスト
平商業 吹奏楽部
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第70回全日本合唱コンクール全国大会
会津 合唱部 高校B
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第9回全国高等学校ダンスドリル冬季大会
郡山 商業 チアリーダー部
最優秀賞・文部科学大臣賞

●第39回全国小倉百人一首かるた選手権大会
安積黎明 かるた部
最優秀賞・文部科学大臣賞

●陸上競技
山内 大夢（会津）
男子400m H2位
女子800m 7位

●バスケットボール
星 寛斗（田島）
少年男子 5位

●ウエイトリフティング
清水 峻雅（福島工業）
少年男子 62kg級スナッチ8位

●自転車競技
白河実業
4kmチーム・パシユート2位

●柔道
杉山 海（田村）
男子81kg級3位

●バドミントン
ふたば未来学園 男子団体1位
ふたば未来学園 女子団体1位

●卓球
室井 寧々（郡山萌世高校通信制）
少年男子 1位

●カヌー
水木 勇斗（二本松工業）
男子カヌースプリント・カナディアンシングル500m 7位

●馬術競技
柴田 祐紀（岩瀬農業）
少年 二段階標準飛越8位

●ソフトボール
少年男子 団体障害飛越2位

●弓道
鈴木陽太郎（白河）
少年男子 5位

●陸上競技
穴澤沙也可（会津学鳳）
少年女子 スピード200m R6位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード500m 8位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード300m 6位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード500m 8位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード300m 6位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード500m 8位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード300m 6位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード500m 8位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード300m 6位

●冬季大会 スケート競技
木田 綾音（郡山商業）
少年女子 スピード500m 8位

小高産業技術高校 P T A 活動

P T A 会長 山 田 好 伸

本校は平成二十九年四月一日、旧小高商業・小高工業が統合され、小高産業技術高校として開校しました。小高に戻った現在、一年生は本校舎第一棟耐震工事のため仮設校舎にて授業を受け、二・三年生は本校舎第二棟で授業を受けております。また、工業実習棟については改修をし、商業実習棟を新たに設置して教育活動を行っております。

今年度の生徒数は、一年生六クラス一六五名、二年生六クラス一八七名、三年生五クラス一五一名の合計五〇三名でスタートしました。現在本校が所在する南相馬市小高区は、まだまだ帰還率は低い状態ではありますが、戻られた地域の方々からは、本校生徒の登下校時の姿や挨拶を見て「元氣が出る」、「町が明るく



なった」等の声をいただいております。

さて本校 P T A は、五月三日に総会を開催いたしました。両校各々の P T A から活動・会計報告を行い、新たに小高産業技術高校 P T A を発足し二十九年度の活動を会員皆様と確認し、P T A としての活動をスタートいたしました。

た。本会の構成は総務、進路対策、健全育成、調査広報の四委員会とし、各々の活動を展開することとしました。活動内容については、P T A 研修行事として校内企業説明会（参加企業二十六社）への参加、朝の声かけ運動、P T A 会報の発行を実施しております。今年度は第一回煌桜祭（文化祭）も十月に開催され、悪天候にも関わらず一、〇〇〇名以上の来校をいただき大盛況の文化祭となりました。P T A としても、模擬店を出店し、会員の連携を深めることができました。

また、P T A 会報については、名称募集を行い、地域名が入った「吉名の風」と命名し、第一回会報を発行いたしました。今後も会報を通して情報をお知らせし、提供していきたいと考えています。



第 1 回 煌桜祭の P T A 模擬店

ました。また、P T A 活動内容等について打ち合わせを行い、総会を開催することができました。実際に活動を進めてみると、様々な課題は多々ありますが、商業・工業が各々培ってきた伝統を引き継ぎ、地域の皆様や他校 P T A の皆様のご支援・ご協力を頂きながら、小高産業技術高校 P T A として新たな伝統を創り上げていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

相馬農業高等学校飯館校への想い

P T A 会長 菅野 ちあき



全国大会に出場して

相馬農業高校飯館校

演劇部 菅野 千那

私たちは八月一日から三日にかけて行われた宮城総文演劇部門に東北ブロック代表として出場し、優良賞と舞台美術賞を頂きました。

上演作品「サテライト仮

想劇」いつか、その日に、は、

私たちが学んでいるサテライ

ト校舎が閉鎖される日を想像

した芝居で、現状を多くの人

に伝えたいという想いを持っ

て創りました。少ない部員や

狭い校舎というハンデの中、

地区、県、東北大会、全国大

会に参加してきました。しか

し、一年以上芝居に関わって

いく中で、部員たちは、責任

感や社会性を高め、全国大会

での上演を満足いく出来で終

えることができました。全国

二千校の演劇部の中で、わず

か十二校しか踏むことのでき

ない舞台での経験は大変貴重

なものでした。

今回の経験で学んだ、一人

ひとりの大切さや責任感、伝

えることの意義を今後の人生

に活かしていきます。



サテライト校舎



飯館村の校舎

す。のどかな環境の中でのびのびと授業を受けている生徒を見てみると、飯館村で再開できたのもっと分野が広がって知識も豊富になり、役に立つことや思い出が増えたのではないかと思います。

残念ながら、相馬農業高等学校飯館校は、平成三十年度から募集停止となりました。二年後には休校となります。

あまりにも突然の話で、分校長先生をはじめ、先生方や生徒、保護者の皆さんも驚かれたと思います。相馬地区の最後のサテライト校が消えてしまふのは悲しいことですが、在校生の皆さんには、ここでしか味わえない時間を有意義に過ごしてもらいたいです。

そう思う中、二〇一七年八月、飯館校の演劇部が全国大会出場。「サテライト仮想劇」いつか、その日に、」を力強く演じてくれました。劇を鑑賞してくださった方々の心の中に、飯館村と飯館校サテライトの現状が強く響いたのではないのでしょうか。

いつか、飯館村の校舎で子供たちが学べる、その日を願っています。

編集後記

・ 中秋から始め、立春に完成、時間の流れがとても早かったです。

(H・O)

・ 多くの方に目を通していただけるよう文字を大きくし、写真もなるべくたくさん配置しました。いろいろな分野での高校生の活躍を知ることができ楽しかったです。(K・N)

希望を確かめ合う

高校生東北被災地視察ツアー

東京都公立高等学校 P T A 連合会の「高校生東北被災地視察ツアー」が平成二十九年七月二十二日（土）から二十



歓迎の言葉を述べる小高産技高 P T A の山田会長

三日（日）の日程で行われ、都立高の生徒三十一名と同高 P 連災害対策委員会の保護者十一名の四十二名が、昨年に続き相双地区を訪れました。

一日目は、常磐道を富岡インターで降り、バスの車窓から人影のない町並みや荒れ果てた田畑などを目の当たりにしました。また、南相馬の防災センターの被害状況の展示や宿舎となった民宿のご主人（震災発生時は南相馬市職員）の話には、厳しい現実を知り、感慨を新たにしたいとの声が聞



交流会で意見を交わす生徒たち（小高産業技術高校で）

かれました。

二日目は小高産業技術高校を訪問し、新しい学校の見学や交流会を通して、被災から現在に至るそれぞれの経験を確かめ合い、一人一人の将来への夢や希望を再確認する意

義深い研修となりました。

保護者間の意見交換でも、被災地に実際に足を運ぶことにより復興の様子を体感できたという意見や、福島の実状を発信することに努めたい等の意見が出されました。

なお、都高 P 連からは池本義信会長、芦沢貴美枝事務局長が同行し、小高産業技術高校からは山田好伸 P T A 会長、同副会長及び鈴木稔校長、関根、中村両教頭、さらには生徒会役員の皆さんが、学校説明を含めた諸準備をいただきました。本会からは、矢部浩樹会長、田中清美前会長、関根英樹元会長、大和田修事務局長が同行しました。